

一 日蓮が弟子臆病にては叶ふべからざる事

仰せに云はく、此の意は問答対論の時は爾前迹門の釈尊をも用ふべからざるなり。此は臆病にては釈尊を用ひまじきかなんと思ふべき故なり。釈尊をさへ用ふべからず、何に況^{いわ}んや其れ以下の等覺の菩薩をや。況^まして謗法の人々に^於をいてをや。所謂南無妙法蓮華經の大音^{おんじょう} 声を出だして諸經諸宗を対治すべし。「巧^{ぎょう} 於^{おなんもんどう} 難問答、其心無所畏^{ごしんむしよい}」とは是なり云云。